



岡崎市民病院 だより

第9号

平成18年8月31日発行

来年5月末から 「敷地内禁煙」といたします。

院長 平林 憲之



岡崎市民病院では、来年の世界禁煙デー（5月31日）から「病院内全館及び敷地内全域における禁煙」に踏み切ることとしました。

タバコには有害な物質が含まれており、その影響は、喫煙者ばかりではなく周囲に居る非喫煙者にまで及びます。平成15年5月1日より施行された健康増進法によって、病院や公共施設等多数の人が利用する施設では、受動喫煙を防止するために必要な措置を講ずるよう、努めなければならないと規定されました。

地域の基幹病院である当院は、市民の皆様の生命と健康を守る社会的使命を果たすと共に、この法の趣旨を率先して実行する使命があると考えています。

現在当院では、職員が一丸となって「患者様中心の病院」を基本とした改善に取り組んでおります。これには(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価(V5)の認定を更新することが必須課題となりますが、この認定要件の中で「敷地内禁煙の実施が極めて適切である」とされていることも、「敷地内禁煙」に踏み切る大きな要因の一つです。

本年はその準備段階として、喫煙所を大幅に減らすと共に、設置位置を移動させて頂きました。

新しい喫煙場所は、第3・4・5駐車場脇および、バス停南側の灰皿が設置されているところ4箇所です。したがって、病院が設置した灰皿のある場所以外は、全て禁煙になりました。歩きタバコや、携帯灰皿の使用による指定喫煙場所以外での喫煙も、ご遠慮いただきますようお願いいたします。

喫煙される患者様やご来院の方々にとりましては、大変不都合なこととは存じますが、敷地内禁煙の趣旨をご理解いただくと共に、ご協力を賜りますようお願いいたします。



オーダーメイド
医療

ってなに？

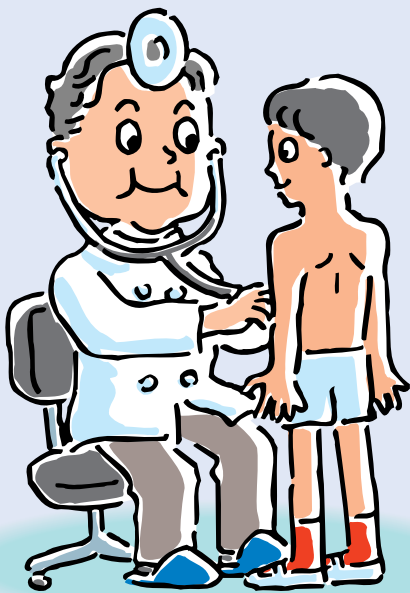


オーダーメイド医療

オーダーメイド医療という言葉を目にしたことがあるかも知れません。テーラーメイド医療と呼ばれることもあります。既製服に対してオーダーメイドの服があるように、患者さん個人個人に合った治療を行うことをオーダーメイド医療と呼ぶのです。

ある病気に対して同じ薬を使っても、ある患者さんには効果が出なかったり、副作用が強くなってしまったりがあります。アルコールに強い人と弱い人がいるように個人差があるわけです。これまでは、実際に治療をおこなってみないと、効果が出るかどうか、副作用が出やすいのかわからないことが多かったのです。最近、このような個人差、いわゆる体質と呼ばれていたものが、遺伝子のわずかな違いによっておこることが分かってきました。

オーダーメイド医療はまだ限られた病気・限られた薬で始まったばかりですが、今後遺伝子に関する情報が蓄積されることによって、患者さん一人一人に最も効果があり副作用の少ない最適の治療が行われるようになるのも夢ではなくなっています。



蘇生標準化委員会



みなさんは、家族や友人が突然意識を失い倒れてしまった時、どうしますか？心肺停止は待たなし！すぐに必要な手当てをしないと助けることはできません。蘇生標準化委員会では、病院職員が急変時に適切に対応できるよう、各種トレーニングコースを開催しています。現在、心肺停止に対応するための2つのコースと、外傷に対応するためのコースを展開中です。

BLS・AEDコース

医師を除く全職員を対象としています。成人の一次救命処置（BLS）と自動体外式除細動器（AED）の使用法を学ぶ、2時間半のコースです。AEDは昨年の愛知万博で活躍し、心肺停止となった4名の方が社会復帰を果たしています。岡崎市の公共施設にも設置されています。

ICLSコース

医師、看護師、救急救命士などを対象としています。成人の二次救命処置（ICLS）を学ぶ、9時間のコースです。いろいろなタイプの心肺停止への対処法、蘇生に使う器具の使用法、薬剤の投与方法などを学びます。日本救急医学会の認定を受けています。

外傷初期診療コース

医師、看護師を対象としています。救急外来における外傷患者への対処法を学ぶ、8時間のコースです。

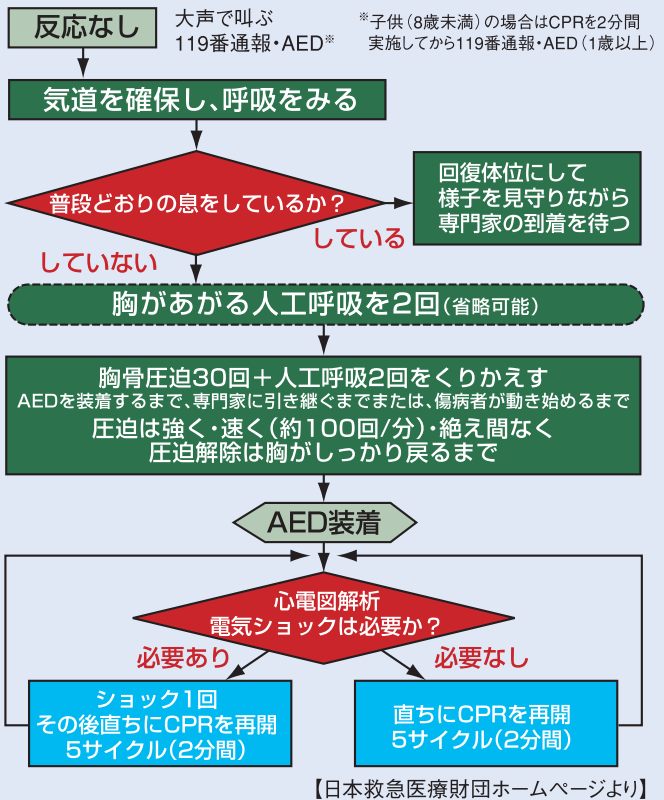
いずれのコースも、人形や模擬患者を使用し現実に近い形でのトレーニングを行うことで、実際に使える技術や知識の習得を目指しています。

心肺蘇生法（CPR）は国際的な基準を基に、各国・地域の実情に合わせたガイドラインが作成されています。昨年秋に新しい国際基準が発表され、現在日本のガイドラインは作成途上にあります。BLS・AEDに関しては、最終版が公表されていますので、市民が行うBLS・AEDの手順を図に示します。

外傷初期診療に関しても、ガイドラインが作成されており、その内容に沿ったコースを開催しています。

蘇生標準化委員会では、これらのコースを通じて、みなさまにより質の高い医療を提供できるよう、これからも活動を続けてまいります。

市民が行うBLS・AEDの手順



CPR（心肺蘇生法：人工呼吸と胸骨圧迫）

小児科

当院の小児科は、15歳（中学生）までのお子さんのさまざまな疾病を対象とし、小児科外来とふたつの病棟を中心に診療しています。小児病棟（4階北病棟）と周産期センターの新生児集中治療室（NICU）です。それぞれの医療内容について、ご紹介します。

1. 小児科外来

平日の午前中は、3から4の診察室で並行診療を行なっています。かかりつけ医からご紹介いただいたお子さんや、前夜に救急外来を受診されたお子さんなどを診察しています。乳児健診や学校検診で異常を指摘されたお子さんの精密検査なども実施しています。また、小児専門の臨床心理士による「動作法」という心理治療も行なっています。

午後は完全予約制の専門外来を実施しています。子どもたちも成人と変わらない分野の病気がありますので、それぞれの専門知識を持った医師による診療が必要です。私たちは常勤医師だけでカバーできない分野を、大学病院や岡崎小児科医会の先生方にご協力いただきながら、週に20コマ以上の専門外来を開設しています。これにより小児の神経病・循環器病・血液病・内分泌病・心身症・アレルギー・予防接種・腎臓病の外来など、子どもの慢性病の殆どすべてに対応しています。

それでもセカンドオピニオンや更なる専門医療が必要な場合は、名古屋大学病院や藤田保健衛生大学病院、あいち小児保健医療総合センター、社会保険中京病院、愛知県心身障害者コロニー中央病院、愛知県立心身障害児療育センター第二青い鳥学園などに協力を求めています。



2. 小児病棟（4階北病棟）

4階北病棟では、子どもの扱いに熟練した看護師による質の高い看護の提供を受けられます。小児科のみならず、手術のために入院される小児外科、耳鼻科、整形外科などのお子さんも小児病棟を使用します。小児病棟は、発熱するような流行性のある疾病を扱う急性期ベッドと、長期間の入院を要するお子さん用の慢性期ベッドがあります。病棟内には慢性病のお子さんのためプレイルームがあり、岡崎市教育委員会の協力により小学校と中学校の院内学級が併設されています。また小さなお子さんの入院生活向上のため、9月から病棟保育士が配置されます。



3. 新生児集中治療室（NICU）

人生のうち最も弱々しく多難な時期が、生まれたばかりの「新生児」です。出産予定日から3か月以上も早産のため、体重が1000グラムに満たないで生まれてくる子どもたちをはじめ、さまざまな問題のため、お母さんと一緒に家へ帰ることができない子どもたちを収容します。設備や体制は成人を対象とする救命救急センターと変わりがありません。医師も看護師も24時間体制をしいて、高度で集中的な管理を行ないます。面会に制約があり淋しい想いをさせて申し訳ありませんが、入院中の赤ちゃんが健やかにおうちに帰れるよう、ご協力をお願いします。



おわりに

岡崎小児科医会の先生方と当院小児科は太いパイプでつながっています。双方が両輪となって岡崎にくらす子どもたちのこころとからだの健康を増進して参ります。当院小児科はその一翼を担うべく、疾病医療だけでなく保健・予防医療の分野にも積極的な貢献をしていきたいと考えています。また、専門的かつ高度な医療水準を追及する姿勢と、お子さんを安心してお任せいただける雰囲気を大切にしていきます。

第九回 市民病院健康講演会開催される

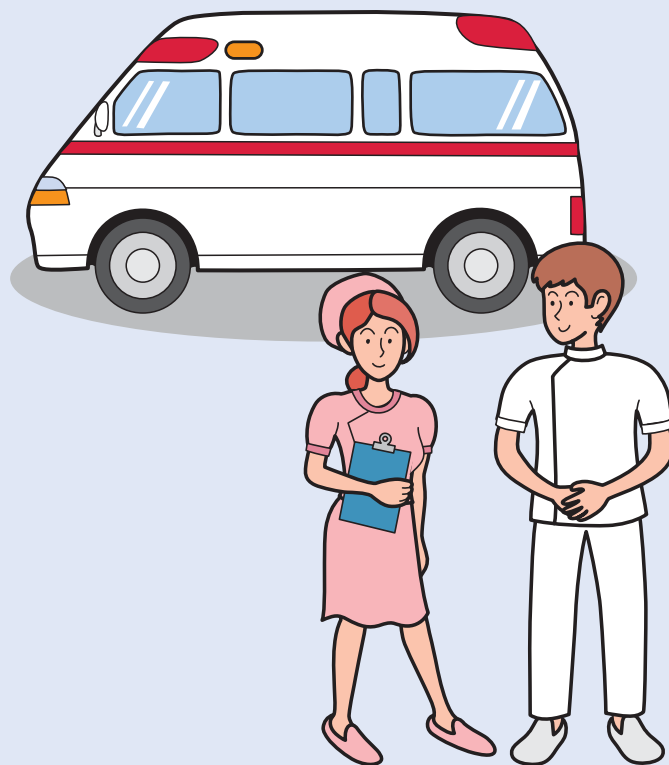
救急医療の話題

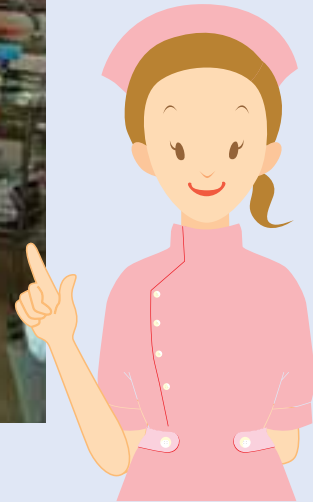
寒さの厳しい1月29日に市民病院講堂で救急医療に関する講演会が開催されました。当日は、市民病院救命救急科浅岡峰雄部長、看護師および岡崎市消防署救急救命士らにより救急医療の内容が紹介され参加者には好評でした。救急医療については、日常のマスコミでも何かと話題に取り上げられ、市民の関心も高いようです。ちなみに、市民病院救急外来を受診する市民の数は年々増加し、平成17年度は総計36,951人で、一ヶ月平均では3,079人でした。救急外来から直接入院される方の総入院患者数への比率は概ね40%前後ですから、救急外来には重症の方が受診している状況がうかがわれます。

ここで、救急医療がどのようにして現代のようなスタイルとなったかについて簡単に紹介します。救急医療の始まりは近代の戦争と深い関連があります。18世紀から19世紀にかけて、ヨーロッパでは武器の近代化とともに戦争で落命する軍人の数が増加し、対策が必要になりました。海戦では軍艦から打ち出される巨大な砲弾が飛び交い、多くのけが人が出ることから軍艦には医師が乗り込み、戦傷の治療に当たりました。英国の有名なネルソン提督は、海戦で右腕に銃弾を受け、骨折に加え動脈も損傷したため少量の経口麻薬とたった一口のラム酒で右腕を切断されました。提督はほとんど無麻酔の手術に耐え、「切断用のナイフの冷たさが身にしみた」とのみ感想を述べました。それ以後、英国軍艦は敵艦を見れば戦闘準備とともにナイフを暖めるようになったといわれます。一方、同時代のライバル国、フランスでは皇帝ナポレオンの侍医ラーが、戦場で事切れる多くの若者に心を痛めました。救済対策として外科医と治療器具を搭載した軽装の馬車を考案し、戦場で倒れた兵士を直ちに馬車に収容し、その場で治療に当たりました。

当時の治療内容は現代と異なり、受傷した四肢の切断手術が主でしたが、ひどく損傷した四肢を戦場で直ちに切断するシステムは有効で、急速に救命率が上昇しました。最終的には、この戦場での「救急馬車」の登場により救命率は75%迄上昇し、当時としては画期的でした。

さて、現代では救急車は設備の整った病院へ重症患者さんを運ぶ役ですが、このナポレオン時代の馬車に相当するドクターカーも最近では注目され始めています。ナポレオン時代と異なり、各種救急薬剤と蘇生のための器具を備えたドクターカーは急変した患者さんの蘇生処置には有効な武器となりそうです。市民病院でも昨年度にこのドクターカーを購入し、現在はその運用を開始しています。





救急看護認定看護師の活動

認定看護師とは、1年間専門教育を受けた後、認定試験に合格し、特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有することを認められた看護師のことで、看護ケアの広がりや質の向上を図ることに貢献することが期待されています。認定看護師制度は、日本看護協会が1996年に、医療を取り巻く急激な環境の変化に対応し、より質の高い看護を提供する為の1つの方法として発足させたもので、17分野で活動を行なっています。歴史の浅い認定看護師制度ですが、その活躍の場は徐々に広がっています。

認定看護師は、特定の看護分野において、実践・指導・相談の3つの役割を担っています。

- ①実践：個人・家族または集団に対して熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。
- ②指導：看護実践を通して看護職に対し指導を行なう。
- ③相談：看護職者に対しコンサルテーションを行なう。

当院の救急看護認定看護師は現在1名で、救急外来で勤務しながら活動を行なっています。自ら科学的根拠のある看護をスタッフの手本となるよう実践に努め、新人からベテラン看護師まで全てに対して教育・指導を行なっています。本年4月からは医師とともに救急現場へ出動して、救護活動を開始し「助けられる命」を「一人でも多く助けたい!」と思い活動しています。また、病院職員全員を対象に行なわれている「一次救命処置とAED(自動体外式除細動器)」の講習会にインストラクターとして参加し、技術指導等も行っています。1月29日には、市民の皆様にも救急に関する情報を提供できればと、岡崎市民病院健康講座で「あなたにも出来る応急処置」と題して、医療従事者でなくても出来る応急処置について話をさせていただきました。このようなことも救急看護認定看護師の役割ですので当院にお越しの際はお気軽にご相談ください。

